

## 投資事業評価調書（新規）

部課室名	農林水産部農林水産局 農村環境課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	課長 青野 正 (小川 至紀)	内線	3931 (3946)
------	---------------------	---------------------	--------------------	----	----------------

事業種目	中山間 総合整備	事業名	事業区間	総事業費	約7億円
		中山間地域総合整備事業	竹野地区	内用地補償費	0.1億円
所在地			事業採択 予定年度	着工予定 年度	完成予定 年度
竹野町床瀬地内ほか			H15	H15	H19
事業の目的			事業内容		
<p>中山間地域の特性を踏まえつつ、生産基盤の整備、都市との交流や生活環境のための基盤整備を総合的に推進することにより、地域の活性化を図る。</p> <p>特に、本地区は、農業生産基盤の整備をはじめ、地域特性を踏まえ山・川・海の恵み豊かな自然環境を生かした都市との交流の拠点施設や生活環境等の整備をし、人・モノが循環することにより、地域の活性化を図るとともに交流活動をより一層活性化させる。</p> <p style="text-align: center;">事業主体：竹野町</p>			<p>農業生産基盤(農道 L=3.6km、農業用排水路 L=2.6km) (国 55% 県 12% 町 18% 地元 15%)</p> <p>活性化施設(交流施設)1棟 304 m<sup>2</sup> (国 55% 県 2% 町 23% 地元 20%)</p> <p>生態系保全施設(ホタル水路)ほか L=1.5km (国 55% 県 2% 町 23% 地元 20%)</p> <p>集落道路 L=6.6km (国 55% 県 6% 町 34% 地元 5%)</p> <p>交流施設基盤(用地整備) A=9,500 m<sup>2</sup> (国 55% 県 2% 町 23% 地元 20%)</p>		
評価視点		評価結果の説明			
(1)必要性		<p>本町は、北部の海浜エリアは県内でも屈指の海水浴場として有名などころであり、年間 80 万人の観光客が訪れている。しかし、中南部の農村地域は人口の都市部への流出とともに、高齢化・少子化により、地域の活力が低下している。</p> <p>このことから、町振興計画では、まちづくりの方向として「自然との共生を大切にすまち」とし、みんなで進めるまちづくりを推進している。そのため、地域住民の参画と協働により、H13 年度にとりまとめられた「農村振興基本計画」においては、生活環境の整備をはじめ自然資源や農林水産資源の有効な利活用や開発、地域の歴史・文化資源の活用を基本理念とし、地域での自主的な取り組みを推進することとしている。その取り組みのための整備をこの事業を活用し、実施するものである。</p> <p>農村部の交流の拠点である床瀬地区は、地域の食材であるそばを活用したさらなる交流の促進を計画するとともに、周辺地域でも地域食材(和牛、豆腐等)の提供、地域資源を活かした様々なイベントも活発に行われている。これら取り組みのネットワーク化を図り、都市住民との交流を深めることは、定住化を促進し、地域の持続的な発展につながる。そのため、このような取り組みを支援することは必要である。</p>			
(2)有効性・効率性		<ul style="list-style-type: none"> <li>・本町は、海浜部と中南部の農村地域が連携した四季を通じた都市住民との交流を目指しており、夏場の観光客を農村部に誘導する必要がある。</li> <li>そのため、今回床瀬地区を中心に、自然を活用した交流のための基盤整備により都市部との交流人口の増加と地域の活性化が期待できる。</li> <li>・投資効率 1.28</li> <li>・用地等地元の協力体制も整っている。</li> </ul>			
(3)環境適合性		<p>資源の有効利用と循環を図るため、活性化施設については極力木造利用とし、内装についても木質化に努める。また、生産基盤の整備については、環境との調和に配慮した整備に努める。</p>			
(4)優先性		<p>この事業に対する地域住民の機運は高く、また地域住民で組織された「ふるさと竹野会」により、都市住民との交流に向けた様々な活動がなされている。これらの活動を支援するためにも、早期の実施が必要であり、H15 年度からの実施が必要である。</p>			